

「臨床整形外科」最優秀論文賞 2018 発表

「臨床整形外科」誌では整形外科領域に関する独創的で優れた論文を最優秀論文賞として表彰することとなりました。昨年1年間(2018年, 53巻)に掲載された投稿論文を対象に、厳正な審査のもと、2論文の受賞が決定いたしました。

「腰椎変性疾患に対する instrumentation を併用した PLIF の費用効用分析 一般的尺度と疾患特異的尺度を用いた検討」

藤原啓恭・小田剛紀・島田裕子・森口 悠・米延策雄・牧野孝洋・海渡貴司
53巻1号: 43-50

「大腿骨近位部骨折の術後深部静脈血栓症スクリーニング」

喜多晃司・森本政司・竹上謙次・友田良太・川喜田英司・海野宏至
53巻5号: 399-407

■受賞のことば

この度は「臨床整形外科」最優秀論文賞 2018 にご選出いただき、誠にありがとうございます。

今回われわれは、腰椎変性疾患に対する手術治療において、比較的頻度の高い手技の1つである後方経路腰椎椎体間固定術(PLIF)の費用効用分析について、「公的医療費支払者」の立場から調査しました。医療費の財政が厳しくなっていく中で、医療の費用効用分析に関する研究は、特に高額な医療材料を使用することが多い整形外科診療において、今後の重要な課題であることは間違いありません。今回われわれが報告した脊椎手術のみならず、様々な術式でのエビデンスの蓄積が急務であると考えます。

本研究の実施には、米延策雄先生、小田剛紀先生、海渡貴司先生、大阪脊椎脊髄グループの先生方、大阪南医療センター整形外科の先生方、診療情報管理士の島田裕子さま、医師事務作業補助の方々に多大なご指導・ご協力をいただきました。また、大阪大学 吉川秀樹教授には、平素より多大なご支援をいただいております。この場をお借りして御礼申し上げます。

(藤原啓恭)

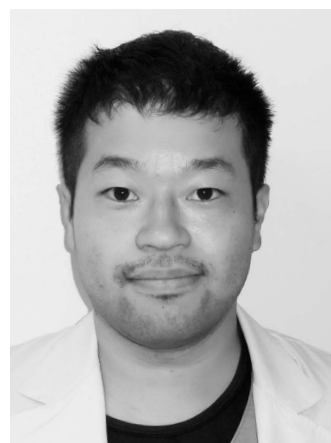


藤原啓恭氏

■受賞のことば

この度は「臨床整形外科」最優秀論文賞 2018 にご選出いただき、誠にありがとうございます。近年、社会の高齢化に伴い骨粗鬆症を有する高齢者の大腿骨近位部骨折は増加傾向にあり、本骨折には肺炎、尿路感染、褥瘡形成、血栓性疾患などの種々の合併症が挙げられます。下肢に発生した深部静脈血栓症(DVT)は肺塞栓症の合併を来す可能性もある重大な合併症と考えられ、そこでわれわれは大腿骨近位部骨折術後の DVT 発生率や危険因子などを検討しました。術後 DVT は 34.5%と発生率が高く、女性、高齢、骨折から手術までの期間の長期化が危険因子と考えられ、受傷後早期の手術の必要性を報告しました。早期手術を行うことが難しい施設もあるかとは思いますが、術後 DVT 予防また ADL 改善の面でも本研究結果が皆様の診療のお役に立てば幸いです。

本研究の実施には、森本政司先生をはじめ済生会松阪総合病院整形外科の先生方、看護師、検査技師の方々に多大なご指導ご協力をいただきました。また湊藤啓広教授(三重大学整形外科)には平素より多大なご支援をいただいております。この場をお借りして御礼申し上げます。
(喜多晃司)



喜多晃司氏

本論文は 2020 年 4 月 30 日まで 1 年間、医学・看護の電子ジャーナルサイト「医書.jp」内において無料でご覧いただけます。受賞者には賞状と金一封、1 年間の本誌冊子版と電子版閲覧権を贈呈します。

雑誌「臨床整形外科」に奮ってご投稿いただきますようお願い申し上げます。